

オリジナル紙芝居「ゆうたくんとイヌワシ」を用いた環境教育活動

泉山真寛・赤松真治・東垣大祐・伊藤波輝・大谷直寛・北村胡桃・
柴田理沙・長尾歩実・花谷和志・奥平夏海・古門優衣・溝口侑希・山内かれん
(兵庫県立大学環境人間学部 EHC 学生団体いきものずかん)

はじめに

現在、さまざまな野生生物が絶滅の危機に瀕していますが、そのひとつに大型の猛禽類であるイヌワシという鳥がいます。日本でもかつては多くのイヌワシが生息していましたが、森林環境の変化などによって生息数が減ってきています。この兵庫県にも生息していますが、やはり数は減っています。そこで、紙芝居という形で子どもたちにイヌワシの存在、現状を知ってもらい、少しでも興味を持ってもらいたいということで、昨年開催された第11回共生のひろばにて、NPO 法人人と自然の会かわせみの会のメンバーの方から声をかけていただき、オリジナル紙芝居「ゆうたくんとイヌワシ」を作成することになりました。

紙芝居作成

イヌワシの紙芝居を作ることになりましたが、私たちにはイヌワシに関する知識が全くと言っていいほど無かったので、イヌワシの勉強をする機会を設けていただきました。かわせみの会の皆様との話し合いに始まり、人と自然の博物館の布野隆之先生のセミナー、そして兵庫県北部の新温泉町にあるイヌワシの生息地である上山高原に連れて行っていただき、イヌワシを見ることはできませんでしたが、イヌワシがどういう環境を好むのか実際に見ることができました。また現地にはずっと住んでおられる方のお話も聞くことができ、イヌワシが多く生息していた当時の環境も知ることができました。



兵庫県新温泉町上山高原

紙芝居の作成は話を作るのが得意なメンバー、絵を描くのが得意なメンバーが中心となり、話の内容、ストーリー、絵など、かわせみの会の皆様、布野先生にアドバイスをいただきながら、ほぼすべてをいきものずかんで作成しました。

「ゆうたくんとイヌワシ」お披露目・結果

2016年11月20日、人と自然の博物館で開催されたドリームスタジオフェスタにて、「ゆうたくんとイヌワシ」のお披露目をさせていただきました。3回読み聞かせを行い、あわせて100名ほどの子どもたちが聞いてくれました。紙芝居の後にはイヌワシに関するクイズ、また絶滅危惧種などの説明を行いました。子どもたちが「面白かった」と言ってくれ、かわせみの会の皆様、布野先生からも高評価

をいただくことができました。

しかし、クイズと絶滅危惧種の説明が、簡単に説明したつもりでも小さな子どもたちにとってはやはり難しかったようです。子どもたちに分かりやすく、少しでも興味を持ってもらえるように説明するにはどうすればよいのかを、今後工夫しながら考えていきたいと思ひます。



これから

現在、この紙芝居は前述のドリームスタジオフェスタでの1回しか使用できていません。イヌワシの専門家からかなりの高評価をいただくことができたので、自信をもって使っていきたいと思ひますが、一方で問題点のご指摘もいくつかありました。「ゆうたくんとイヌワシ」はこれで完成ではなく、よりよい紙芝居になるように多くの方の意見を聞き、改良し、そして、兵庫県にもイヌワシがいるということを知ってもらうように、読み聞かせの場を増やしていきたいと思ひています。

最後に、NPO 法人人と自然の会かわせみの会の皆様、布野隆之先生をはじめとした多くの方に、アドバイスや学習の機会を与えていただきました。ご協力しいていただいた皆様、ありがとうございました。





「ゆうたくんとイヌワシ」(一部)